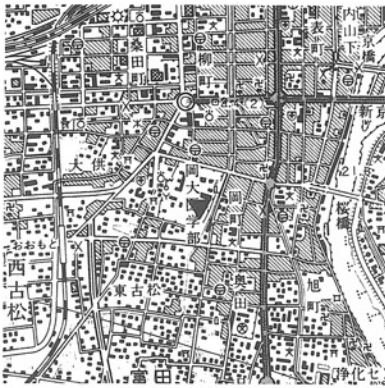


岡山・鹿田遺跡しかた

- 1 所在地 岡山市鹿田町二丁目
- 2 調査期間 第一四次調査 二〇〇三年(平15)七月～二月
- 3 発掘機関 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
- 4 調査担当者 岩崎志保・高田浩司・野崎貴博・横田美香
- 5 遺跡の種類 集落跡(荘園関連)
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期後半～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

鹿田遺跡は弥生時代中期後半から営まれた集落遺跡で、古代・中世では摂関家領「鹿田庄」との関連が指摘されている。発掘調査は



(岡山南部)

一九八三年から行なわれ、今回報告の調査は第一四次調査にあたる。岡山大学医学部附属病院病棟建設に伴うもので、調査地は、木簡三点が出土した第九・第一次調査(本誌第二号)に隣接する。調査面積は一三三二㎡である。

調査では、平安時代後半から室町時代までを中心とした時期の集落を確認し、井戸・柱穴のほか、大小の区画溝を検出した。大規模な区画溝には近世にまで継続するものがある。そのほか、弥生時代の水田関連遺構(畦畔・溝)も検出されている。

木簡一点は、調査区北側で検出された平安時代後半から末頃までの井戸より出土した。上面が径一m程の円形を呈する素掘りの井戸で、検出面からの深さは一・六mである。上面から〇・五mまでは僅かにすり鉢状に傾斜し、以下はほぼ垂直に近い傾斜である。埋土の最下層である灰色粘土層は井戸の使用段階の流入土と考えられ、その一枚上層である有機物を多く包含する灰色粘土層から、木簡・櫛・土師質土器碗各一点、瓦器碗二点などが出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「
天定(符籙)
王王王王
田火金水
木□□□

(431)×55×6 019

木簡は三片に分離しており、下端は欠損している。上端は面取り加工がなされている。墨書面を下にして出土した。上から三分の一ほどは残りも良く、墨書も明確に判読できる。以下は、表面の荒れがひどく、ひび割れなどにより、判読が困難な状況であるが、赤外線カメラによる撮影によって判読を行なった。裏面の荒れも激しい

が、こちらには明確な墨書は認められない。

なお、木簡の内容については岡山大学の久野修義氏、今津勝紀氏のご教示を得た。

9
関係文献

岡山大学埋蔵文化財調査研究センター『紀要二〇〇三』(二〇〇四年刊行予定)



(岩崎志保)

広島県立歴史博物館

『草戸木簡集成』三

(草戸千軒町遺跡調査報告六)の刊行

三分冊で完結する本書の刊行により、草戸千軒町遺跡出土木簡四八〇〇点余の釈文が揃うこととなった。遺構ごとに木簡の出土状況、個別の木簡の釈文と解説・考察を掲載し、さらに木簡データの一覧表と図版を付す。信仰・呪術資料のほか、新たに闘茶札・聞香札なども含まれており、当時の生活文化を考える上で貴重な内容をもつものである。

A 4 判九二頁、図版二〇葉

二〇〇四年三月刊行、定価一五〇〇円（送料三四〇円）

なお、『草戸木簡集成』一・二（一九九九・二〇〇〇年刊）も残部あり。定価各一二〇〇円、送料三四〇円（二冊あたり）。申し込みは現金書留または郵便振替にて左記へ。

〒七二〇—〇〇六七 広島県福山市西町二—四—二

広島県立歴史博物館友の会（ミュージアムシヨップ）

TEL 〇八四—九三二—二五二三

加入者名 広島県立歴史博物館 友の会シヨップ

口座番号 〇一三四〇—八—四四三六一